

## 私の趣味

札幌市医師会  
北海道労働保健管理協会 健診センター診療所

池田 雄祐

私の趣味も医師になって45年も経つといろいろ変遷し、もう少しどれか一つに集中できなかったかと反省する。

外科の医局時代、古道具を集めだした。学生の頃、医局に訪ねた先輩が統計処理に苦勞して使っていたタイガー計算機や高校で使用法を教えられた計算尺等から始まる。いずれも電卓の出現で絶滅した。次第に、子ども時代に見たが使用されなくなった道具に興味に移り、子どもの頃履いていたゴム製単靴、行商人が持ち歩いていた棒測り、天秤測り、現在のメジャー以前に使用されていた折り尺、瀬戸の湯たんぽ、囲炉裏に差し込んで爛をする底部が尖った取っ手付きの瀬戸の爛徳利、鯨番屋で使われたような箱入りの三平汁の皿、古い蕎麦猪口等を集めた。

この頃買った20枚程揃った小皿は割れて数は減りながらも、蕎麦猪口とともに今もわが家で現役である。最後に探したのは、まだ蒸気機関車の長距離列車に乗った時、駅のホームで駅弁と一緒に買ったお茶を入れる瀬戸の容器である。これに熱いお茶を注いで売っていた。やがて、これがビニール製になり、次にペットボトル全盛になる。この容器が欲しくなり、学会で各地に行く度に古道具屋を巡り、本州のある町で、これを捜し当てた。しかし北海道のは無骨で茶色の上葉が塗ってあり、本州のは上葉も透明で洒落たデザインで私の望んでいたものでなく、探すのを諦めた。

さらに古道具好きが噂を呼び、学生実習時に1回だけ実際に見たことがあるエーテル麻酔の箱に収まったエーテルの目盛り瓶とマスク一式を麻酔科医師がもう使わなくなったからとくれ、出張先の婦長の旦那さんが教育委員会職員で、縄文時代の遺跡発掘の文献とそれに関わる矢尻と石斧等をもらったりした。

30年前にオホーツク沿岸の都市に長期出張を指示された。毎夜、酒を飲みに出歩いていたら、途中から一緒に住み始めた妻に夜の過ごし方を健全化したらと言われ、考えた末、その頃、Luxから出ていた真空管のプリアンプとパワーアンプを各々キットで購入、官舎の空き部屋に部品を広げ、毎夜組み立てに没頭し完成させた。数年後、札幌に戻った時、琴似にあったLuxの出張所に持ち込み調整してもらい、これは今でも現役で時々聴いている。

次はPC関係である。始めは東芝のワープロを使い、フロッピーで原稿を移動したのが懐かしい。NECの98を使い始め、次にMacに移り、20年近くMacを何度か買い変えて使っている。これで学会の

スライド等を作った。この最初の頃に梅棹忠夫の情報カードにはまり、当時、図書館でまだ使用していた検索カードを購入流用して、カードにいろいろ記録してみた。これをPC上でできないかと模索中に、後輩がほんの30分ほどでこのカードの形式をデータベースソフトのファイルメーカープロで雛形を作り、更にカードの欄外に新規、検索、印刷のボタンを作ってくれた。この雛形が優れもので、最初はメモ代わりに使っていたが、次第に日誌になり、始めは1週間に1日か2日だったのが、ほとんど毎日打ち込むことになり、20年近く続き、現在に至っている。この記録は例えば地名で検索すると該当するカードが何枚か出てきて、文章を読むと交通手段、所要時間、用事の内容が瞬時に分かるのである。この魅力が日誌を継続させ、昔を懐かしむ高機能記録となっている。

そしてまたインターネットで10年ほど前に6BM8という真空管のミニチュア管を使い、左右1本でスピーカーを鳴らすシングルパワーアンプが話題になっているのを目にした。さらにそこで採用されている電源トランスと出力トランスが会社は既に無くなり、希少価値というタンゴトランスであった。それが以前に作ったアンプにあることに気付き、これを取り外し、他の部品は秋葉原の部品屋に電話していろいろ助言を得ながら揃えて、都合半年程掛かり、やっとのことで作り上げた。このアンプに以前に自作したFOSTEXの口径10cm程のスピーカーを入れた小さなスピーカーボックスを繋げ、音源はiPodから取ることにした。既にあったCDや新たに購入したCDからiPodに数百曲取り込んで聴き始めた。今では最新でも7年前ぐらいの音源で古くはなっているが、我ながら良い音と満足して聴いている。シャッフルしたら河島英五の歌、エンニオ・モリコーネの映画音楽がヨーヨーマのチェロ、そしてフジコヘミングのピアノという具合に、無秩序に出力されるのをBGMとして楽しんでいる。これに気を良くして安いトランスを新たに買い、スペアの同形式アンプを作り聴き比べている。何度も部品屋に電話するので、「お客さん注文の都度、現金払い込みは面倒だから、厚紙に100円硬貨等をセロテープで貼って金を送りなさい」とまで言われるようになってしまったのも楽しい思い出である。時々真空管の足をソケットとの接触を良くするためペンチで矯正すると年に1回ほど真空管に掛かる電圧をテスターで測定しながら調整したり、真空管を交換する手間はあがるが、小さいながら健気に働いてくれている。

以上、古道具探し、検索可能な日誌、真空管アンプの制作等を思い出してみると、その時期ごとのストレス解消法となり、さらに年齢とともに僅かではあるが、気長になっていることを認識した。今はこれらを時々触って、維持するのが趣味となってしまう。年甲斐もないが、また新しいことに挑戦してみようかと思うのである。